



相談会場ではマスクを着用し他の人との間隔をあけるよう、協力をお願いします。

各種相談の市ホームページはこちら →

相談	相談日	時間	会場	問い合わせ・備考
行政相談	10日(水)	午前10時～午後2時	いきいきふれあいセンター 2階	●国、県、市など行政の仕事に対する意見や要望 ☎シティプロモーション課 ☎(62)7109
	18日(水)	午前10時～午後3時	健康長寿センター 2階 娯楽室	
	24日(水)	午後1時～3時	塩原公民館	
心配ごと相談	1日(月)	午後1時～3時	いきいきふれあいセンター 2階	●日常生活のあらゆる相談 社会福祉協議会黒磯支所 ☎(63)3868
	15日(月)		健康長寿センター	
	9日(火)		ボランティアルーム	
	24日(水)		塩原公民館	
不動産相談(予約制)	22日(月)	午後1時30分～3時30分	県不動産会館東北支部(黒磯文化会館前)	※相談日当日までに要予約。 県宅建協会東北支部 ☎(62)6677

マザーズコーナー 出張職業相談	12日(金)	午前9時～正午	いきいきふれあいセンター 2階 子育て相談センター	●子育て中の人の出張就職相談 ハローワーク大田原 ☎0287(22)2268
	17日(水)	午後1時～3時	つどいの広場「ほっぺ」(方京)	

※弁護士による法律相談は3月の日程。

弁護士による 法律相談(予約制) ※内容が同じ相談は2回まで可。	3月2日(火)	午後1時30分～4時30分	いきいきふれあいセンター 2階 相談室	※2月1日(月)から受け付け開始。定員18人 社会福祉協議会黒磯支所 ☎(63)3868
	3月6日(土)		健康長寿センター	※2月1日(月)から受け付け開始。定員18人 社会福祉協議会本所 ☎(37)5122
広域無料法律相談(予約制)	2月12日(金)	午後1時30分～4時40分	トコトコ大田原 市民交流センター(大田原市中央1丁目)	※2月5日(金)から受け付け開始。定員18人 大田原市総務課 ☎0287(23)1111

人権相談	2月は休み。電話相談を利用してください。 みんなの人権110番 ☎0570(003)110		●人権相談、人権保護などの相談 ☎社会福祉課 ☎(62)7135 ☎市民福祉課 ☎(37)6231 ☎総務福祉課 ☎(32)2912
------	--	--	---

育児相談(予約制)	4日(水)	午前9時30分～11時	黒磯保健センター	●保健師や栄養士などによる育児に関する相談 黒磯保健センター ☎(63)1100 西那須野保健センター ☎(38)1356
	9日(火)	午後1時30分～3時	西那須野保健センター	

健康相談 食生活相談(予約制)	8日(月)	午前9時～10時30分	黒磯保健センター	●保健師や栄養士による健診の結果相談や、その他心身の健康相談 黒磯保健センター ☎(63)1100 西那須野保健センター ☎(38)1356
		午後1時30分～2時30分	西那須野保健センター	
こころの相談(予約制)	2日(火)	午前10時～正午	黒磯保健センター	●日本カウンセリング学会認定カウンセラーによる相談 ☎社会福祉課 ☎(62)7026
	16日(火)	午後1時～5時	西那須野保健センター	

成年後見無料相談会(予約制)	16日(火)	午前10時～正午	西那須野保健センター 1階	●障害者や認知症の人のための相談 ☎社会福祉課 ☎(62)7026
----------------	--------	----------	---------------	--------------------------------------

編集後記

子どもたちをサッカーや特集の取材先で見ていると、どの子どもも寒さに負けず、元気に活動していました。自分の子どもころを思い浮かべると、昔は寒さに弱かったのを覚えています。冬の朝はなかなか布団から出られず、よく親に注意されたものでした(笑)。そして大人になった今、私の冬の最大の敵は「静電気」です。家のドアを開けるときや車に乗るとき、人に近づくととき…毎回見えない敵と闘っています。乾燥の厳しいこの季節は、コロナも静電気も十分に対策をしていきたいと思ひます。(齋藤)

年明け後最初の出勤日、出迎えてくれたのはみるひい宛ての年賀状の数々。手書きのイラストや、家族写真に仲間入りした実写版みるひいの姿を見て、「愛されているなあ」と改めて感じました。そんなみるひいの公式プロフィールには「好きな言葉は『牛の歩みも千里』』という文言があります。牛の遅い足取りでも、地道に進めば遠くまで行けるとい意味です。なかなか先が見えないこのご時世、一歩ずつでも着実に良い方向に進めるように…という願いを込めて、私も微力ながら募金や献血に協力しています。(高久ま)

男女共同参画情報

みいな

んな っしょに かよく

vol.63



▶ 問い合わせ ☎市民協働推進課 ☎0287(62)7019

市民編集委員/阿久津一志 菊地千恵 鈴木房代 柳場美枝子 和氣喜美子

令和3年度「みいな」市民編集委員募集!

市では男女共同参画社会の実現を目指し、男女共同参画情報「みいな」を作成しています。編集に参加してみませんか。申込方法などの詳細は市ホームページを確認してください。



バックナンバー、編集委員募集はこちら

「お父さんのカレー」



作:miina 絵:daisuke

今回のテーマは「地域」です

Uターンして経営コンサルタントとして活動する潮一先生・博恵氏夫妻に話を聞きました。



Uターンして事務所を構えたきっかけは

一先生: 大学卒業後、東京の会社に就職して約30年が経過し、一定の成果を得て仕事が一段落していたところ2015年に母が他界。葬儀に参列して下さった人々から、両親が地域社会の発展に貢献したというお話をいただき大きな感銘を受けました。「よし、ここまで育ててくれた故郷に自分も残る人生を賭けて恩返しをしたい!」と考え、翌年にUターンをしました。

どのように地域に関わっていますか

一先生: 主にはセミナーでの経営に関する講義や、ものづくり補助金の支援(採択実績は県内No.1)、那須塩原市商工会と連携した創業者支援などで関わっています。その他、劇団なすの主催「那須野の大地」に夫婦で出演したり、塩原温泉まちめぐり案内人の会に夫婦で所属したりして、地域資源のプロモーションに注力しています。

男女共同参画の視点から地域の活性化について

博恵氏: 東京と地方の格差がよく話題になりますが、地方は人々の人生の選択肢が限られているように感じます。色々な選択ができ、チャレンジできるということは豊かさでもあるので、地域を活性化するには欠かせません。多くの人が「自分にはこんな可能性が広がっている!」と感じられるようになるお手伝いをすること、つまり「他人を価値化する」ような仕事がしたいですね。

“夫婦円満の秘訣は「相手をよく知ること」”という2人に、お互いに対する想いを聞きました

博恵氏: 自由な発想ができてすごいなというも思っています。

一先生: 人間の最小単位は2人ではないかと思っています。私にとって、いなくてはならない存在であり、感謝しかないですね。

